



竹内緑を支えるルワンダの会

ニュースレター

No.17 (2021年6月)



「あなたがたの神、主は、・・・みなしごや、やもめのさばきを行い、在留異国人を愛して
これに食物と着物を与えられる。」(申命記10:18)

新型コロナウイルスによる感染拡大が収まらない中で、いかがお過ごしでしょうか。変異株の脅威、3回目の緊急事態宣言、医療体制の逼迫、進まぬワクチン接種、コロナ禍によって生活苦や自殺に追い込まれる人たちなど、日本のコロナ事情に思いを馳せつつ、このニュースレターを書いています。

「コロナ禍」と言うように、新型コロナウイルスによってもたらされた禍は、世界中いたる所で起きたのでしょう。しかし、ここルワンダでは、意外にも新型コロナ肺炎が感染症であるために恩恵を被った人たちがあります。

数年前、ルワンダ政府は、路上での売買を禁止しました。アフリカ大陸の多くの国や地域で見られる、路上で物を販売する人、家々を回って行商する人たちがいます。野菜や果物、衣類、シーツやタオル、鍋などの台所用品、ハガキや地図などを販売する人たちは、店舗を構えることのできない貧しい人たちです。つまり、一室を借りる、或いは市場の一角を借りて店舗とし、その賃貸料を支払うことのできない経済力のない人たちです。

路上で販売している人たちの多くは、若い男性であり、シングルマザーたちです。中には、赤ちゃんを背負って行商をしています。炎天下、重い野菜や果物を頭に載せて、文字通り額に汗して売り歩いている女性たち、背中の赤ちゃんも辛そうです。このような女性たちが我が家の門を叩きます。中には、喉の渇きを癒すため、一杯の水を乞う女性もあります。



この日、集まった子供たち。マスクはアメリカの教会から送られたもの。カラフルなマスクがありながら、多くの子供たちが着用している黒色のマスク、その理由は汚れが目立たないから…とのこと。これもルワンダの一般的傾向だそうです。

一般に、彼女たちが販売する野菜や果物は、店舗を構えている店より安価で、しかも重い野菜や果物を自宅まで届けて下さるのは、消費者にとっては有難いことです。食品だけでなく、古着を売る女性もやってきました。古着の値段は、一枚 100 円~200 円余りで、中には掘り出し物があり、私も購入していました。

政府が政策を決定して以降、行商をする女性たちの姿が街から消えました。なぜなら、これに違反すると、直ちに逮捕・収監されるからです。夫のいないシングルマザーたち、『子供を育てなければならないあの女性たちは、どうしているのだろう・・』と、頭を過りました。

そして、昨年 3 月、新型コロナウイルスの感染によって国際空港が閉鎖され、ロックダウンなどの厳しい措置が取られ、また緩和されて今日に至っています。

ところが、昨年の 10 月頃から、再び行商する女性たちの姿が見られるになりました。なぜなら、新型コロナウイルスによって、獄中がクラスターの発生源になるため、警察官が取り締まることができなくなってしまったのです。今や公然と行商をしています。

最近、我が家を叩く魚売りの女性がいます。彼女は見るところ 30 歳代、3 人の子供を持つシングルマザーです。職業はお手伝いさん、依頼された家で掃除や洗濯をしながら、その合間に魚を売り歩いています。おそらく、彼女の 1 か月間の収入は、1 万円以下であり、このような女性の多くは、小学校を終えていません。

新型コロナウイルスは、貧しい人たちに冷たい政府の政策を有名無実としたのです。流行が収束するまでの限定された期間でしょうが、職業選択の余地のない貧しい人たち、弱い立場の人たちの生業が守られたのです。

4 月 3 日、私は約 5 か月振りにリリマへ行きました。コロナが流行する以前には、毎週出かけていたリリマでしたが、これもコロナ禍です。供たちの様子を見るため、大人ではなく供たちだけに集まつてもらいました。供たちとスタッフを合わせて 20 人余りが集まり、歌って踊って、食事をして、この日一日は『コロナ』を忘れました。



この日購入した魚（淡水魚約 21 cm）は、約 1キロ、約 400 円。時々、リリマの湖でとれた魚（同種類）もあります。調理法は味がたんぱくなので丸ごと揚げてそのまま食べるか揚げたてのものを野菜と一緒に煮込む、塩焼きなどです。



文中の魚売りの女性

集まつた子供たちの中には、私が甘えようとぴったり身体をくつつけてくる女兒がいました。私が誰かと話していると来るのを控え、独りになると直ちにやつて来てスキンシップを求める彼女は、甘えたくても甘えられない境遇にあります。またトラウマの症状が明らかに見られる思春期の女性も、気になります。

他にも昼食時、距離を置いて食事をしている私を、ちらちらと見る男児など、それぞれが問題を抱えて、何らかのサインを表しているようです。

コロナ禍にあっても問題や事件は起こります。家出を繰り返す少女、簡単に性的関係を持つ女性たち、これらの問題はイタベホの受益者だけに見られることではなく、広くルワンダで見られる傾向です。特に性的モラルの低さは、世界的傾向であり今日的課題と言えるのでしょうか。イタベホの受益者である女性や子供たちは、前述した行商の女性よりもっと貧しく、物乞いをしていた人たちであり、転落するのは簡単です。



子供たちが一堂に会した様子。三密です・・



イタベホの働き人 左より、竹内、ロレンス（カウンセラー）、デボタ（会計）、テラシス（コック）、バルタザール（夜警）

問題や事件が起きると関係者やスタッフたちと協議し対処しますが、最終的に決断するのは私であり、私自身の在り方が問われます。

思想の乏しさや愛の欠如など、私の精神的貧しさを感じる時もあります。

受益者である子供たち、それぞれが背負っている固有の重荷を幾分かでも軽減し、人として尊厳ある生き方ができるよう、確かな判断に導いてください、と祈る者です。

「他人のために、あるいは世界のために行動し、ものごとを行おうと試みても、その人が自分自身への理解を深めたり、自由、誠実、愛する能力への理解を深めようとしないなら、他人に何も与えることはできないだろう。」（トーマス・マートン）

ご支援に感謝いたします。どうぞ、くれぐれもご自愛ください。

2021年6月 キガリにて

竹内 緑





祈りの課題

以下の祈りをお願い致します。

- 1、 受益者である子供たちが神を愛し人を愛する人として成長しますように。事件や事故から守られますように。
- 2、 2021 年に必要な活動費が与えられますように。
- 3、 現在まで、受益者及びスタッフとその家族が、一人としてコロナに感染していません。お祈りに感謝いたします。続けて、お祈りをお願い致します。
- 4、 新型コロナのワクチンが途上国の国々にも行き渡り、世界的流行が収束しますように。
- 5、 私を含むスタッフたちが、この働きにふさわしい者として整えられますように。

NGO の名称は、ルワンダ語で **ITABWEHO (イタベホ)** 、この意味は
「愛すること、世話すること、癒すこと」などであり、私たちが行っていることです。

- 1 心の傷を癒すために心理学（精神）的だけでなく、全人的なアプローチを行う。
つまり、心理的、肉体的、社会的、靈的な支援を行う。
- 2 心に傷を負った女性だけでなく、彼女の家族（子どもたち）をも含めて支援をう。
- 3 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で生活を共にしてケアを行う。
- 4 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため 30 人余りの少人数とする。

以上は、我々独自のものであり、理念とも言える基本的考え方です。

【ご支援・ご協力のお願い】

会費及び寄付金のお願い・・・「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようにお願い致します。

年会費（会計年度 1 月 1 日～12 月 31 日）

- ・会員 一口 5,000 円
- ・賛助会員 一口 2,000 円

※会費以外の寄付も隨時お受けいたします。

【会費・ご寄付の送金方法】

○郵便振込

（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801



ご連絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局

〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1

日本キリスト教団八頭教会内

電話 0858-72-0075

E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com (竹内緑個人アドレス)

